

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気回路Ⅱ(再)						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	必修(組込みシステムコース)/必修(電気エネルギーコース)/選択必修(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正弦波交流回路の定式化から定常解析法までを学び、具体的回路が解析できる。(A6,A7)</li> <li>・ 受動素子の抵抗・インダクタ・キャパシタや回路の特性をインピーダンスやアドミタンスで表現できる。(A7)</li> <li>・ 電圧や電流の実効値や位相の関係をベクトル表示し、解析できる。(A7)</li> <li>・ 交流の電力や力率が計算できる。(A6,A7)</li> </ul>						
日程と内容	第1回 : 09/19 : 正弦波と交流抵抗回路、電力、平均電力、実効値 第2回 : 10/03 : 交流回路素子(インダクタとキャパシタ)、交流回路の定常解析 第3回 : 10/10 : フェーザ法 第4回 : 10/24 : ベクトル図と交流電力 第5回 : 11/21 : 単位認定試験 第6回 : 11/28 : 単位認定試験 第7回 : 12/05 : 単位認定試験 第8回 : 12/12 : 単位認定試験 第9回 : 12/19 : 単位認定試験 第10回 : 01/09 : 単位認定試験 第11回 : 01/23 : 単位認定試験 第12回 : 01/30 : 単位認定試験						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	再履修授業なので、一度履修して不合格になった学生を対象としている。したがって、本来の授業とは異なった手法で授業内容を構成している。第1回目から第4回目まで知識の整理・復習を行い、5回目から12回目まで単位認定試験(「定期試験」に相当)を行い、可否を判定する。この手法により、問題を解くことに慣れて、その結果この授業の目標が達成される。単位認定試験を5回以上受験して不合格になった学生は3名であり、他の不合格者は受験回数自体が少ないので不合格でもやむを得ない。実質の到達度は30/33である。						
反省点	毎年、5時限目を利用して開講する再履修の集中講義であるので、学生にも気の毒な面はあるが、時間をかけて(問題を沢山解いて)合格して欲しいので、この方式を長年続けてきた。						
来年度の計画	引き続き、同じ方式で再履修科目を実施する。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業アンケートを実施する時期の関係で、アンケート回答者は合格できていない学生ばかりである。したがって、授業内容の理解が低い(3.8)のはやむを得ない。一方、総合評価8.8は再履修の集中講義方式が5時限目であるにもかかわらず理解されているのだと感じる。						
履修登録者数	49名	定期試験 受験者数	33名	合格者数	30名	合格率	91%